

表1 水道施設の技術的基準を定める省令(平成12年2月23日厚生省令第15号)(最終改正令和6年4月1日)第1条第16項別表第1

事 項	基 準	事 項	基 準
カドミウム及びその化合物	カドミウムの量に関して、 0.0003mg/l以下であること。	鉄及びその化合物	鉄の量に関して、 0.03mg/l以下であること。
水銀及びその化合物	水銀の量に関して、 0.00005mg/l以下であること。	銅及びその化合物	銅の量に関して、 0.1mg/l以下であること。
セレン及びその化合物	セレンの量に関して、 0.001mg/l以下であること。	マンガン及びその化合物	マンガンの量に関して、 0.005mg/l以下であること。
鉛及びその化合物	鉛の量に関して、 0.001mg/l以下であること。	陰イオン界面活性剤	0.02mg/l以下であること。
ヒ素及びその化合物	ヒ素の量に関して、 0.001mg/l以下であること。	非イオン界面活性剤	0.005mg/l以下であること。
六価クロム化合物	六価クロムの量に関して、 0.002mg/l以下であること。	フェノール類	フェノールの量に換算して、 0.0005mg/l以下であること。
亜硝酸態窒素	0.004mg/l以下であること。	有機物 (全有機炭素(TOC)の量)	0.3mg/l以下であること。
シアン化物イオン及び 塩化シアン	シアンの量に関して、 0.001mg/l以下であること。	味	異常でないこと。
硝酸態窒素及び亜硝酸態 窒素	1.0mg/l以下であること。	臭気	異常でないこと。
ホウ素及びその化合物	ホウ素の量に関して、 0.1mg/l以下であること。	色度	0.5度以下であること。
四塩化炭素	0.0002mg/l以下であること。	アンチモン及びその化合物	0.002mg/l以下であること。
1, 4-ジオキサン	0.005mg/l以下であること。	ウラン及びその化合物	0.0002mg/l以下であること。
シス-1,2-ジクロロエチレン及び トランス-1,2-ジクロロエチレン	0.004mg/l以下であること。	ニッケル及びその化合物	0.002mg/l以下であること。
ジクロロメタン	0.002mg/l以下であること。	1, 2-ジクロロエタン	0.0004mg/l以下であること。
テトラクロロエチレン	0.001mg/l以下であること。	亜塩素酸	0.6mg/l以下であること。
トリクロロエチレン	0.001mg/l以下であること。	二酸化塩素	0.6mg/l以下であること。
ベンゼン	0.001mg/l以下であること。	銀及びその化合物	0.01mg/l以下であること。
塩素酸	0.4mg/l以下であること。	バリウム及びその化合物	0.07mg/l以下であること。
臭素酸	0.005mg/l以下であること。	モリブデン及びその化合物	0.007mg/l以下であること。
亜鉛及びその化合物	亜鉛の量に関して、 0.1mg/l以下であること。	アクリルアミド	0.00005mg/l以下であること。

表2 水道用薬品の評価のための試験方法ガイドライン(最終改正令和5年3月24日)

参考資料表2 水道用薬品の注入率の設定例

薬品名	設定最大注入率(例) (mg/l)	実績最大 注 入 率 (mg/l)	最大許容 注 入 率 (mg/l)	問題となる 項 目
液体硫酸アルミニウム 1)	200	130	333	マンガン
固形硫酸アルミニウム 2)	100	240	200	マンガン
ポリ塩化アルミニウム 3)	300	360	333	マンガン
水酸化ナトリウム 4)	100	52	500	水銀
炭酸ナトリウム	100	80	500	水銀
水酸化カルシウム	100	55	100	クロム
硫酸	50	50	125	水銀
次亜塩素酸ナトリウム 5)	100	92	—	—
高度さらし粉	20	—	—	—
粉末活性炭 6)	100	—	—	—
ケイ酸ナトリウム	20	—	250	水銀
塩酸	50	—	—	—
液化塩素	50	30	—	—
硫酸銅	2	0.25	—	—
過マンガン酸カリウム	10	—	—	—
塩化第二鉄	300	—	—	—
ポリアクリルアミド	1	—	—	—

注 ここで示した設定最大注入率(例)はあくまで参考例であり、実際の最大注入率の設定については水道事業者等が薬品の使用状況等を踏まえ設定すべきものである。

- 1) 酸化アルミニウム8%溶液に換算した値。
- 2) 酸化アルミニウム15%溶液に換算した値。
- 3) 酸化アルミニウム10%溶液に換算した値。
- 4) 45%溶液換算した値。
- 5) 有効塩素10%溶液に換算した値。
- 6) 水分50%の粉末活性炭に換算した値。